

平成31年1月15日発行

2019年

1月号

年4回発行(1. 4. 7. 10月号)

No.1080

(学法)日本力行会

平成31年1月15日発行 (1)

R I K K O S E K A I



第85回「力行祭」記念式典（2018年11月3日）

創立1897年1月1日



## 目 次

第85回 力行祭	2～4	力行国際交流サロン 「茶道交流会」	
ウェルカムパーティー	5		..... 11
りっこう幼稚園だより	6・7	会館生バス旅行	13
りっこう学童クラブ	8・9	今、ベネズエラは？	14
地域交流「八雲神社大祭」参加!!		おたよりコーナー	15
	10	新たな役員等が決まる	16

## 日本力行会恒例行事

## 第85回 力 行 祭

-11月3日（文化の日）に実施-

当会の恒例行事である「第85回 力行祭」が、去る11月3日（土）の文化の日に開催され、秋晴れの下、多くの参加者が集い、大盛況の内に幕を閉じました。

「力行祭」は、記念式典と、新園舎園庭や園舎内で実施されるバザー及び模擬店から成り、これまで近隣の方々からご好評を得ていた会館在住の留学生達による各国お国自慢の料

理模擬店出店が在学先の学園祭に参加することで出店できませんでしたが、会場には多くの方々が朝早くから集い、手作り品やゲームコーナー、さらには食事処のブースに多くの人の長蛇の列ができ、サプライズで実施されたサクソフォン演奏や、フィナーレを飾る園児及び卒園児有志達によるチアリーディングにも多くの

聴衆が集まるなど、広々とした会場は、この良き日を祝うにふさわしい雰囲気でした。

今回の開催に当たり、多くの関係者よりご支援を賜ると共に、準備の段階からご協力いただいたりこう幼稚園PTAの力行祭準備委員会委員や、おやじの会の皆様ほか、ご協力頂いた皆様に心より御礼を申し上げます。

## 記念式典

記念式典は、ご来賓、関係団体及び当会役員のご臨席のもとに、肃々と進行。開会にあたり村上悦榮理事長より、ご臨席の方々への御礼と先人の遺業に感謝すると共に、力行祭の沿革及び最近話題となっている日系4世ビザと外国人就労ビザのことについて、今後の力行会の在り方に関連付け、現在の状況をかんがみた当会独自の「学び舎造り」に邁進していく旨を述べられました。続いての記念礼拝では尾山清仁牧師による人生の成功には3つの秘訣があることを説いた記念講話「人生の転機」を拝聴、本年度の逝去者報告と祈祷を行いました。ご来賓を代表して、佐藤健治小竹町会長からは、今後とも力行会と町会が手を携えて共に発展することを期待することが述べられ、また、佐藤正文小竹小学校長からは、「4つのC」に例えた自らの成長を意味づける活動として、当会と学校との今以上の連携を期待する旨が述べられ、各々から祝意が表わされました。



村上理事長



尾山牧師



佐藤小竹町会長



佐藤小竹小学校長

## 記念演奏会

かつて式典は二部構成で、記念公演や演奏会などが実施され、式典参加者にご好評を得ていたため、今年度より久し振りに記念演奏会を復活しました。

今回の実施に当たっては、武蔵野音楽大学に演奏会への協力をお願いしたところ、快く承諾していただき、一昨年度同大学を卒業されたOBメンバーで構成されたサクソフォングループ「ラミ・サクソфон・クアルテット」による、サクソфон四重奏が奏でられ、式典出席者の耳を楽しませました。

今回のメンバーは、2017年に武蔵

野音楽大学を卒業、同期の4人で結成されたサクソфон四重奏団で、既に多くのコンクールにも入賞し、クラシックからポップス、さらには演歌までと幅広いレパートリーを持ち、様々な場所で活躍されています。打ち合わせ段階でお話ししたときも、当会の沿革の説明にも大変前向きに受け止められ、かつ場を楽しませたいという気配がにじみでており、当日の演奏が大変楽しみでした。

式典終了後に、国際館地下ホールは演奏会会場に早変わり。初めのう

ちはクラシックメドレーでサクソfonの音色をじっくりと楽しむ内容でしたが、徐々にアップテンポかつポピュラーな曲目となり、ラストの「ラテンメドレー」では会場と演奏者が一体となり大いに盛り上がりを見せ、アンコールの「ドレミの歌」で会場の盛り上がりは最高潮のうちに演奏会はフィナーレとなりました。

その後式典会場を後にしたメンバー達は、バザーや模擬店の会場となっている幼稚園中庭に突如現れ、園児達に親しみ深いディズニーメロディーなどを演奏。園児達はサクソfonメンバー達に驚くと共に、一緒に口ずさんでいたのが大変印象的でした。



ラミ・サクソfon・クアルテット



バリトンサックスの山口雅忠さん



ソプラノサックスの田嶋玲奈さん



アルトサックスの日下雅史さん



テナーサックスの高知尾和規さん

## 園庭・園舎バザー風景スナップ集



## 力行祭

寺田麻理

11月3日、力行祭を園児、保護者、職員が全員参加で盛大に行いました。

5月から力行祭係の父兄の方を中心に、すべては園児の為にそしていつもお世話になっている近隣の方々に感謝の気持ちを込めながら準備が進められてきました。

毎年手作り品、ゲームは在園児には勿論、卒園児、未就園児の方々にも大変人気です。楽しみに来園される方々の笑顔を想像しながら気持ち

を込めてひとつひとつ丁寧に作られた品々はどの作品も素晴らしい、手作りされたお母様方の愛情が感じられます。力行祭2週間前には園内に力行祭のポスターや模擬店案内図が提示され、手作り品の展示会が行われました。どの子も目を輝かせながらポスターや品物を見つめていました。「わたし、これ絶対に買いたい！」「この電車買えるの？」「礼拝堂そびにいく！」と期待に胸をふくらま

せていました。

そして当日、たくさんのお客様が来園されました。園庭にはおにぎり、パン、お団子、飲み物が並び、おやじの会が作る焼きそば、フランクフルト、カキ氷屋さん、職員がつくるりっこう幼稚園名物の豚汁、今川焼も出来上がり、幼稚園全体がおいしい香りに包まれています。園内も手作り品販売、スライム、ボウリング、プラバン、ワニワニパニック、駄菓子釣り、いきものになれるって（迷路）と、子どもたちが楽しめるお店が沢山です。お家の方と子どもたちみんなのあふれる笑顔があちらこちらで見られ、心温まる一日となりました。

# ウェルカムパーティ

早いもので、2018年も残す所、4ヶ月となりましたが、秋期も新しい会館生が中国、アメリカ、ドイツ、ブラジルから力行会館にやってきました。

事務局としては、会館生達が送るこれまでの留学生活の楽しい思い出作りができる様、そのきっかけとして「ウェルカムパーティー」を9月8日(土)に開催しました。

参加の会館生達は皆、時間に正確で、開始時間に遅れる事なく集まり、事務局長の挨拶を聞き、課長から各国の言語による、乾杯の挨拶の後、お待ちかねの食事の時間となりました。

テーブルの上に並べられたピザ、お寿司、唐揚げとポテトなどの日本での料理を囲み、新しい友達と賑やかに歓談し、とても和やかな雰囲気の中で、パーティーは進められました。

今回もお忙しい中、駆け付けて下さった、武藏大学の応援団の皆様による演技を観賞させて頂きました。大きな声で「フレーフレーライブ」、又、大地震で被災地の北海道へ向けて「フレーフレー北海道」と声援を送っていました。来たばかりの会館生達は、初めてみるその応援演技を感心して見つめました。

演技が終わり、応援団の皆様の紹介をさせて頂きました。応援団の大矢様は、当会の日本語指導のボランティアもされていて、日頃より大変お世話になっている方です。もうお一人駆け付けて下さった日本語指導のボランティアの永吉様にもご挨拶をして頂き、その後、事務所職員と管理人夫妻も皆さん覚えてもらえるよう、スタッフ紹介をしました。

続いて会館生同士の交流を深めるために、ゲームを始める事にしました。

「じゃんけん自己紹介」のゲームのやり方を職員と幼稚園研修生がお手本となり、管理人がポルトガル語でブラジルの会館生に説明。会館生が英語で

説明しました。

ゲームが始まると皆大盛り上がり。「じゃんけん自己紹介」の長い行列が出来て、最後は、2つの長い行列での対戦、優勝者と準優勝者に、賞品が授与されました。二人とも、恥ずかしながらも嬉しい様子で、会館生の大きな拍手に感激していました。

ゲームが終わり、片付けのアナウンスをすると、皆、率先して協力、残った料理を会場の地下ホールから日本

館食堂まで運んだり、お皿やコップのゴミをまとめてくれたりと、終始、大変スムーズに開催する事が出来ました。

この会館で過ごす時間を大切にし、楽しく充実したものになるよう、職員一同支えていきたいと思います。

最後になりましたが、今回ゲームの英語説明を協力者である、ブラジルのラファエル君からの感想文を紹介させて頂きます。

## **“Welcome Party's report”**

For the first couple of months I was in Japan I lived by myself in a small apartment until one of my friends introduced me to Rikko Kaikan, and we scheduled a short visit so they could show me around. I met Yamamoto-san and everyone from the office, who explained all the rules and introduced me to other students before I had even moved in, and that experience made my moving quite easy.

The fact that I got here on an unusual month meant the welcome party for the students I was living with had already happened, so the one I participated in 3 months after moving in was a first for me.

Everyone who works at Rikko Kaikan introduced themselves and welcomed the new students, we had one more little explanation of the rules before they read out all the countries where we had students move in from, we said “cheers” in the languages of each of those countries and then got to eating. There was plenty of food, enough that most of us got to actually take something for later, which I quite appreciated.

A while later, we got to see a show from the Musashi University male cheer squad, and it was interesting. It was my first time to see anything like that, and I'm sure it was the same for many of the new students, if not all of them.

The welcome party was a great way to get everyone settled and gave us all the opportunity to meet each other and interact for a while, which makes everyone feel more comfortable and, of course, welcome. It was incredible to see the dedication that went into making everything go smoothly for all of the new students, which makes me sure they will do everything to ensure everyone can get the best out of their time in not only Rikko Kaikan, but in Japan.

# りつこう幼稚園だより



## 敬老会

もも組 金高美沙稀

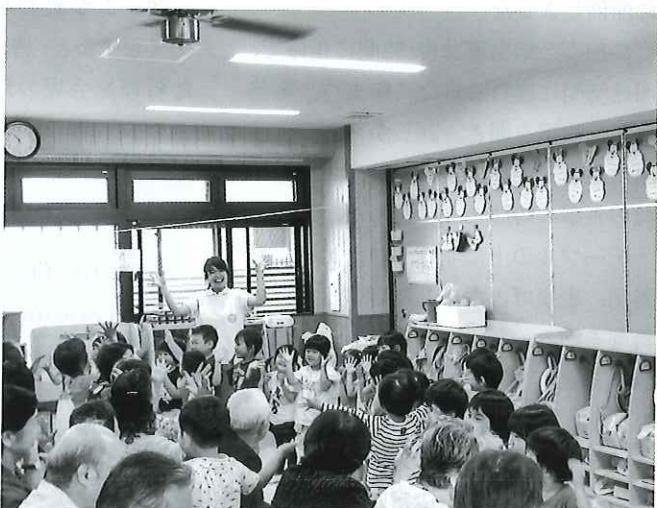
9月12日(水)敬老会を行いました。登園してくる子どもたちは「今日は幼稚園にみんなのおじいちゃんとおばあちゃんたちが来るんだよね!」と、とても楽しみにしている様子でした。おじいさんとおばあさんたちがお部屋に入ってくると、子どもたちの表情はドキドキ、ワクワクしているようでした。

お部屋では、出席確認を大きな声で返事ができる姿を見てもらったり、歌をうたったりと、笑顔溢れる温かなひとときを過ごしました。おじいさんとおばあさんと一緒に手遊び「一本橋こちよこちょ」では、最後の「階段上って、こちよこちょ~」の部分でおじいさんおばあさんをくすぐったりくすぐられたり。お部屋の中が、子ど

もたちとおじいさんおばあさんの笑い声でいっぱいになりました。いつもみんなで踊っているキッズ体操を見てもらうと「上手だね」と褒めてもらえて、みんなとても嬉しそうでした。楽しい時間はあつという間で、みんなでゼリーを食べて、おじいさんおばあさんに絵本を読んでもらうと終わりの時間が近づいてきました。おじいさんおばあさんに「楽しかったよ。ありがとう。」

と言ってもらえて、照れ臭そうな表情も見られました。

おじいさんおばあさんがいつも見られない幼稚園での子どもたちの姿に、成長を感じられたのではないでしょうか。これからも、おじいさんおばあさんと過ごす時間を大切にし、感謝の気持ちを持って過ごしていけるよう願っています。



## 運動会

もも組 松尾涼子

季節外れの暑さの中、10月7日(日)に運動会を行いました。各学年、運動会当日までの過程を大切にしながら練習に取り組み、子どもたちは「あと〇回寝たら運動会!」と指折り数えて心待ちにする姿が見られました。

初めての運動会となったのも組。たくさんのお客様や普段と違う雰囲気に少し緊張する様子もありましたが、力いっぱい走ったり、おうちの方と笑顔で親子リズムを楽しむ姿が見られました。

すみれ組は1年前から大きく成長し、一人ひとりが力いっぱいマット運動に取り組んだり、友だちと力を合わせてつなひきをする頼もしい姿がありました。

そして、幼稚園最後の運動会を迎えたゆり組。当日までたくさん練習を重ね、心をひとつにして取り組んだ組体操、プレイバルーン、1人ひとりが真剣な表情でバトンをつなぎ、だりレーなど、どの競技も年長組らしい立派な姿で力を発揮することができました。

暑い中、本当に多く

のお客様に来て頂き、たくさんの拍手や歓声、あたたかい応援が子どもたちの大きな力になったこと思います。

運動会までの日々の過程や当日の経験を通し、心も体もまたひとり回り大きくなれた子どもたち。一人ひとりが頑張った達成感を大きな自身につなげ、これからも園生活でも様々なことに挑戦していけるよう見守っていきたいです。



## さんままつり

もも組 佐藤梨奈



10月19日さんままつりを行いました。前日に子どもたちは「明日はおにぎり弁当とさんまだよね!」「お弁当の蓋をお皿にして食べるんだよね!」とさんままつりを楽しみにしていました。

当日クラスごとに発泡スチロールに入った大量のさんまを見に行くと、たくさんのさんまを前に「知ってる!

食べたことある!」などと目を輝かせている子や、さんまの顔を見て表情がこわばっている子など、さまざまな反応がありました。

その後、園庭で焼いているさんまを見に行きました。外遊び中も子どもたちは、「いいにおい」「さんまだかなー?お腹空いちゃった」

と七輪の様子を見に行く子や、「すっごい煙だー」と逃げ回る子など、幼稚園全体のさんまを焼く香りと煙で包まれた雰囲気を楽しんでいる様子でした。

さんまがお部屋に届くと興味津々な子どもたち。ももぐみは骨なしの半身、すみれぐ



みは骨ありの半身、ゆりぐみは一匹のさんまを食べました。配られるすぐに手づかみでかぶりつく子もあり、「おいしくてもう食べ終わっちゃったね。」と友だちとの会話も弾むなど楽しいひとときとなりました。

帰りに「さんま一匹食べたんだよ」と誇らしげなゆりぐみ、「骨いっぱいだったけどお箸で食べられたよ」と教えてくれるすみれぐみ。このように、学年が上がるにつれ、さんまの食べ方が難しくなることへの期待を持つつ、旬の食物を食べ、その恵みに感謝する気持ちを大切にしていきたいです。

## おいもほり遠足

もも組 森田彩花

11月9日、日に日に秋が深まる中、おいもほり遠足に行ってきました。子どもたちは、スマックと大人靴下を履き、準備万端の姿で登園してきました。期待と少し緊張した表情でしたが、バスの中でお芋を掘る真似をして「もぐらみたいに掘るんだ」と得意気に話したり、持ってきたおやつの話をしているうちに気持ちが高まってきたようでした。

あらはたえんに到着し、お芋の畑に入るとすぐに夢中で掘り、「とれた!」とお芋を持ち上げて見せる姿が見られました。大きな袋がはち切れそうなくらい収穫する子どもたちの姿から、子どもたちのたくましさが伝わってきました。土が苦手だった子どもも初めは恐る恐る土に触っていましたが、お芋が見えてくると掘る手に力が入ってい

ました。

自分で収穫したお芋の袋はとても重くなりましたが、一生懸命運んでいました。手を泥だらけにしながら自分で食物を収穫するという経験は、とても新鮮だったのではないかと思いました。

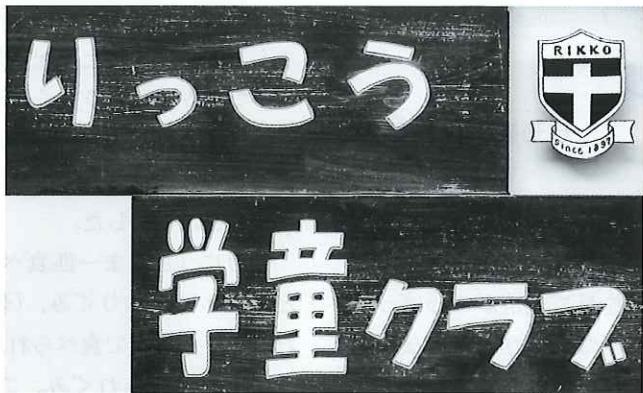
収穫後は各クラスごとに輪になっておにぎりを食べました。いつもよりも増

して食欲があり、あっという間に食べ終わりました。

後日、子どもが「お芋ほり楽しかった」「お芋ほりでとったお芋、お弁当にはいってるよ」とキラキラした表情で話す姿が見られました。

今回のおいもほり遠足では自分で収穫する喜びを味わえた貴重な経験になったのではないかと思いました。





## 遠足（科学技術館）

夏休みの一大イベントとして、九段下にある科学技術館へ遠足に行ってきました。初めて電車を乗り継いで移動でしたが、子どもたちはきちんとマナーを守ることなど、社会体験ができたものと思っています。

科学技術館はその名の通り、現代科学の進化を楽しみながら様々なことが学べる場所で、子どもたちも興味津々

でした。

まず始めに、3Dメガネを使用した宇宙に関する立体投影の映像を鑑賞しました。3Dメガネを使用しているので、まるで自分が本当に宇宙にいるかのような空間に包まれ、隕石などが自分に向かって飛んでくると、ついつい体を横に動かして、隕石を避けてしまっている子どもたちのかわいい姿が

見受けられました。

その後は、数名ごとのグループで行動し、各階のブースを自由に見学しました。巨大なシャボン玉の中に自分が入れるブースでは、1人で入っている子や、2人や3人で友達と仲良く入っている子もいました。そのシャボン玉に息を吹きかけてみたり、指で触ってみたりと、巨大なシャボン玉に子どもたちは釘付けでした。

その他にも最新の科学を展示しているブースや、衝突事故の衝撃を体感するブースなど普段できないような体験ができました。子どもたちに最も人気があったのは、自動車やバイクの運転を体験できるブースでした。男女、学年に関係なく順番に並んで、何度も何度も運転している子もいました。子どもたちは、自動車やバイクを運転することに憧れがあるみたいでした。

子どもたちに好奇心を抱かせるものが多くあり、「え～もう帰るの？」と名残惜しそうな言葉が出るくらい真剣に楽しく遊んでいました。



運転体験に夢中



ライダー気分を味わう

## ハロウィンパーティー

10月31日のハロウィンの日に合わせて、学童クラブでもハロウィンパーティーを行いました。

ハロウィンの日に向けて、魔女やドラキュラに変身するために、「なに作る？」とみんなで相談し、帽子とマントを製作することにしました。ドラキュ

ラは襟がついたマント、魔女は襟がないマント、帽子はオレンジや黒のとんがり帽子など、子どもたちも創造力を發揮し、様々な工夫をしていました。

当日は、自分で作った帽子やマントを身に着け、さらに個々に飾りつけをしたバッグを持って、小竹町の街を練



仮装して街を歩く子どもたち

り歩きました。道行く人たちも子どもたちの素敵な仮装を微笑ましく見守ってくれました。学童クラブ周辺の八百屋さんや近隣の方にご協力して頂き、「trick or treat !」「お菓子をくれないといたずらしちゃうぞ！」と言いながら、袋いっぱいにお菓子を頂いて帰ってきました。

自宅に帰る時も、自分が作ったマントや帽子、バッグがとても気に入った様子で、「家族に見せるんだ～」とハロウィンの仮装をしたまま帰る子もいました。



八百屋さんにお菓子を頂く



## 地下ホールでの遊び

力強く投げる



「今日、地下ホール行く？」子どもたちが学童クラブに帰ってきて、第一声は決まってこのセリフです。りっこう学童クラブに通っている子どもたちは、体を動かすことがとても好きなようで、毎日体を思いっきり動かすことを楽しみにしています。地下ホール

では、ドッヂボールや大縄、一輪車をしています。

ドッヂボールは、やはり毎日練習しているだけあって、段々レベルが上がってきています。4月の頃には、ポールをうまく持てない、相手まで届かない、まっすぐ投げられないような子が多く見られましたが、練習を重

ねていくうちに強いボールを相手に向かってしつかり投げられるようになりました。大人も怖がるような威力のボールを投げる子もいます。

大縄では、8の字飛びができるようにみんなで日々練習

しています。小学校で大縄の授業があり、「学童クラブでも大縄をやりたい！」と子どもが言ったのがきっかけで流行り始めました。回っている縄が怖くて入れない子も何人かいましたが、今では子どもたち同士でタイミングを教え合いながらタ

イミングよく飛ぶことができます。

一輪車に関しては、子どもの成長はとても早いもので、今では二人で手をつなぎながら乗ることができるようになっています。開設当初、一輪車は3台しかありませんでしたが、女の子を中心に「私もやりたい！」という声が多く聞こえるようになったので、2台買い足して5台使用しています。4月の時点では、一輪車の上に乗ることすらできない子たちばかりでしたが、今では1年生でも1人でスイスイとこげるようになっています。

仲良く漕ぐ



飛んだ！

地下ホールの遊びにかかわらず、子どもたちは毎日輝くような笑顔を見せてくれています。『今までできなかつたことができるようになった！』そんな成功体験は子どもたちの学童クラブの生活の中で忘れられない思い出になると思います。これからも子どもたちの素敵な笑顔が一つでも多く見られるよう、見守っていきたいと思います。

## 地域交流 「八雲神社大祭」に参加!!

9月16日(日)小竹町の八雲神社大祭の御神輿担ぎに会館生を引率し参加してきました。当日は、御神輿担ぎにはピッタリの曇天で涼しいくらいと思っていましたが、次第に熱気で暑くなる程に。朝10時から5時間、会館生達は御神輿担ぎ体験を楽しむ事が出来ました。

今回は、女性13名、男性9名、国別では、中国人大学生14名、アメリカ人大学生3名、ドイツ人大学生2名、ブラジル人大学院生1名、ブラジル人日本語学校生1名、フィリピン人日本語学校生1名の総勢22名が参加しました。

当日は、朝9:20に日本館食堂に集合。皆、時間に遅れることなく集まり、青色の男性用と赤色の女性用の法被の着方の指導を受けた後、着衣をすませてから、会館玄関で記念撮影。

八雲神社まで向かうと町会の人達も集まつていて、ちょうど御神輿の魂入れ神事が行われ、その後、御神酒を配つて頂き、気合入れの前に飲み干してしまう会館生もいて、笑顔に。

式典が終わり、三本締めの後、御神輿担ぎです。はじめに、小さい子供達の引く山車が出発。次に子供御輿、そして最後尾の大人御輿も出発となりました。担ぎ出しは、町会の担ぎ手の方からスタート。会館生達にはその担ぎ方を見て覚えてもらいました。「わっしょい! わっしょい!!」と、景気のいい掛け声と共に、リズミカルな神輿担ぎが始まりました。

最初の休憩地点は、小竹図書館を過ぎた辺り、町会の方々と交代し、担ぎ手に回る事が出来た人もいて、引き続き、笛や拍子木で音頭を取る人も一緒に、元気良く「わっしょい! わっしょい!」と言う掛け声が、小竹町内に響き渡りました。

日大芸術学部の所で、2度目の休憩。沢山の飲み物が振る舞われ、一同、乾いた喉を潤わせ、体内から出切ってしまった水分をしっかりと補給。担ぎ出しから御神輿担ぎを続ける学生に、「肩は、痛くないですか?」と尋ねると、皆、声を揃え、「少し痛いけど大丈夫です。とっても楽しいです。」と、明るく答えてくれました。

休憩が終わり、三度目、四度目の御神輿担ぎで中国人の大学生2名が参加、皆交代しながら、全員が御神輿担ぎをすることができました。

先に出発した山車や子供神輿の姿が見えてくると、ほぼ同時に、昼食場所の小竹小学校に到着。一本締めの後、参加者全員におにぎりと飲み物が振る舞されました。お祭りに参加の町会の方々と一緒に、昼食のおにぎりを校庭で食べました。食べ終わった後、広い校庭にある遊具で遊びだす人もいて、若さみなぎるその姿に感心。

お昼休みも終了の時刻に近づくと、「12:45から御神輿担ぎがスタートするので、御神輿に集まって下さい。」との掛け声に全員集合、集合写真を撮り、再び、御神輿担ぎがスタート。会館生達も、引き続き参加。再び、威勢のいい「わっしょい! わっしょい!」の掛け声が、小竹町内に響き渡った。力行会館に近づくと、管理人夫妻も、



応援に駆け付け、手を振ってくれました。会館前の小林元代議士宅で休憩となり、沢山のオードブル、焼き鳥、おにぎり、フルーツ、漬け物、飲み物等が振る舞われ、会館生達も、それぞれ好みの食べ物を頬張り、「美味しいです!」と嬉しそうに食べていました。

休憩中に、山車や子供神輿は一足先に終了。参加記念のお菓子を嬉しそうに持ち帰る子供達の姿を横目に、御神輿は、再スタート。次は、江古田駅近くの、江古田斎場まで、「わっしょい! わっしょい!」と、当会の役員でもある山賀町会役員より声掛けをされて、残りの力を振り絞り事務所職員も参加し、皆で御神輿担ぎ、斎場近くに到着すると、御神輿を振り上げ、一本締め。冷たい飲み物を頂き、しばしの休憩。町会の方々ともすっかり打ち解け、笑顔で会話をする姿も見られました。

最後の休憩も終わって、朝、スタートした八雲神社まで、担ぎ手一同、疲れも見せずに、「わっしょい! わっしょい!」と、元気良く、最後の御神輿担ぎ。小竹図書館まで来ると、間もなく、八雲神社という所で、盛り上げ役の担ぎ手が登場。御神輿の後方から、渾身の力で御神輿を左方へぐーっと押し、又、すぐに右方へぐーっと押しを、繰り返し繰り返し行い、御神輿と一緒に、担ぎ手一同も、左右に移動しながら、「わっしょい! わっしょい!」





と、皆、笑顔で神社へ到着!!

境内に入ると、一同、御神輿を高く上げ、その場をぐるぐると何周かした後、「それ！それ！」「そいや！そいや！」と、掛け声を掛けながら、御神輿を上げ下げし、最後は、おきまりの三本締めでお開きとなりました。

参加した会館生は、皆、口をそろえて、「とても楽しかった。」「いい経験が出来ました。」と、達成感で満足した表情を見せてくださいました。

二年に一度の「八雲神社大祭」に、今年も参加させて頂き、再来年の次回

も会館生と共に参加出来る事を、今から楽しみにしております。そして、これからも、より一層、地域の方々との交流を大切にし、会館生と共に邁進して行きたいと思います。お世話になりました。今後共、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、今回、参加

It was the first time I had the experience and opportunity to carry a Japanese temple through the city. When I saw the invitation made by Rikkokai to participate I was doubtful if I would be able to take the task, yet a close friend insisted that I participate and I was happy that she did it. The experience was unique! It was exhausting but everyone contributed when they felt they could, so I too carried as far as my body could take. Being able to walk around the city with the Japanese and see a bit about their culture up close was extremely exciting. In addition, I was able to drink and eat with them, all very traditional Japanese culture, such as sekihan.

TATIANA MONIQUE NIWA

(新宿日本語学校・ブラジル)

してくれた会館生を代表し、新宿日本語学校に通学中でブラジル出身のTatiane Monique Niwaさんに感想文を書いて頂いたので、紹介させて頂きます。

入が終わった後も、サロンスタッフに茶道や日本の文化や生活などに関して質問をしている姿が見られました。

今回の開催にあたり、お世話になつた皆様へ、誌面にて、お礼をお伝えさせて頂きます。特に、今年度ご卒業になられる、立教大学茶道部の今村亮太様には、4年に亘り、この会を支えて頂きました事、感謝の気持ちで一杯です。引き続き現2年生の加藤綾華様には連絡役を引き受けて頂きまして、大変ありがとうございます。改めまして、今後共、温かいご支援の程、お願い申し上げます。又、皆様の益々の



## 力行国際交流サロン 「茶道交流会」

去る10月6日（土）力行国際交流サロンで、毎年、お世話になっている立教大学の7名の茶道部員の皆様にご尽力頂き、恒例の「茶道交流会」を開催しました。

当日は、当会館・日本館の和室を会場に、サロンスタッフの空花様、小澤様のご協力のもと、中国9名、ドイツ3名、マレーシア2名、ブラジル1名、タイ1名の16名の会館生が参加しました。

お茶会は、2回に分けて行われ、各回共、食堂で受付後、茶室に席入りする形で、進行しました。急用で不参加の人が1名いましたが、参加者は全員、時間前に集まり、スタッフの方の的確

なご指導、職員の迅速な対応、茶道部員の皆様よりご丁寧で心温かいご対応を頂きました。

2回共、席入り直後は、少し緊張した空気が流れていましたが、お菓子とお茶を頂いた後からお茶を点てる体験の頃には、会場の雰囲気は和やかで、日本語、英語が飛び交い、楽しく交流する姿を拝見する事が出来、大変、嬉しく思いました。今回の参加者も、茶道や日本の文化に深く興味を持っている人ばかりで、退席後のアンケート記



ご活躍をお祈り申し上げます。

最後になりましたが、立教大学茶道部の加藤綾華様より頂きました感想と、参加の会館生である RAJA ALESYA IZBEE BINTTI さんより頂いた感想と、参加者全員に書いて頂いたアンケートを、紹介させて頂きます。

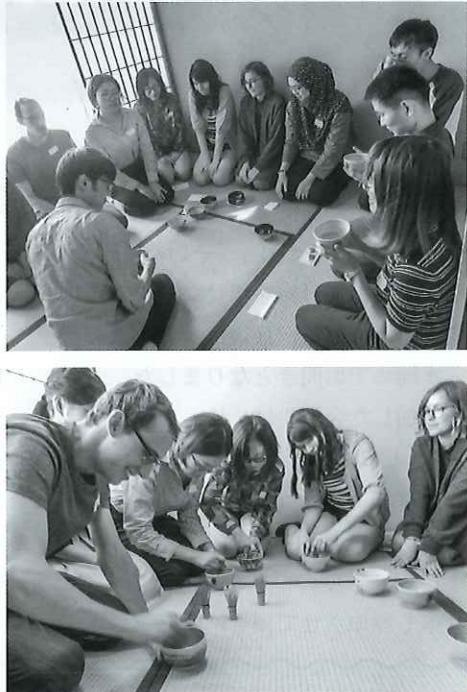
この体験を通して、外国人の方に日本の古くからの文化である、茶道を少しでも知っていたら嬉しいです。つたない英語で申し訳なかったのですが、理解してくださり、仲良くなれたと思います。これからも、もっと様々な方に茶道の素晴らしさを知っていただきたいです。

立教大学 茶道部 加藤 綾華 様より

I attended the Japanese tea ceremony organised by Rikko-kaikan and it was a phenomenal experience. In a Japanese style room, students from Rikkyo University's Tea Ceremony Society demonstrated the way the ceremony is conducted. The meticulous nature of process, the story behind every detail of a seemingly daily activity (drinking tea) is taken to a whole other level; starting from the way to sit leading to after drinking the tea.

First, I got to try some Japanese snacks and observed the process of thin tea making (also known in Japanese term as 'Usucha') with using traditional tools that were used in the past. The tools used were also illustrated for better understanding and the students explained on the manner to be taken place before, during and after drinking the tea. In addition, I got the opportunity to make my own tea, connecting with the Japanese students, having conversation, enjoying sweets and tea. As it was informative and knowledgeable, I gained further depth about the Japanese culture and wish to experience more in the future.

RAJA ALESYA IZBEE BINTTI  
(新宿日本語学校・マレーシア)



## 茶道交流会に参加した会館生の感想

- ①お菓子はおいしかったです。自分で抹茶を作ってみましたが、達人の作ったものと比べて、まだまだです。(タイ・男子)
- ②お菓子もお茶はおいしいです。簡単で面白いです。人々がやさしいです。足がちょっと痛い。中国の茶道と違います。(中国・男子)
- ③とても伝統的な茶道でした。そしてそれは日本の伝統文化の精神を示していました。(中国・男子)
- ④全体的なお茶の点て方は複雑ではありますが、人々の内面からは平和を感じられます。(中国・女子)
- ⑤今回の体験は短いけれど、その中に「和敬静寂」の精神がよく感じられました。そして、日本の伝統文化の魅力が見えた。(中国・男子)
- ⑥とてもよかったです。学生とお話できてよかったです。(ブラジル・女子)
- ⑦おもしろかった!(中国・女子)
- ⑧「おさきに」という精神とお茶がおいしかった。(中国・男子)
- ⑨面白かったです。(マレーシア・女子)
- ⑩雰囲気がとてもよかったです、私は会話を好きでした。日本の文化を見るのはとても面白かったです。私はお菓子とお茶のいただき方がドイツとは全く違っていましたので驚きました。(ドイツ・男子)
- ⑪すごいスピードで混ぜました!(中国・男子)
- ⑫茶道は面白いです。茶道が本当に好きになりました。足が痺れました。(中国・女子)
- ⑬お茶の飲み方。本当に美味しいです。(中国・女子)
- ⑭美しい日本文化を体験するのは私にとって初めてのことでした。お菓子とお茶はとても美味しいです。(ドイツ・女子)
- ⑮日本の文化について学びました。部員の人達は私達の全ての質問に答えてくれました。(ドイツ・女子)
- ⑯とても面白かったです。日本の文化を学ぶよい方法でした。(マレーシア・男子)

(順不同)

# 会館生バス旅行

11月25日(日)、会館生32名と職員3名、旅行会社の担当者1名で、山梨県の河口湖へ日帰りバス旅行に行って来ました。

例年、3月に軽井沢一泊スキー旅行を開催していましたが、近年、1セメスター(3月中旬から8月上旬、又は、9月中旬から2月上旬)の留学生が多くなり、開催時期にほとんど会館生がない状況の中、会館生の参加が少なくなった事もあり、会館生のいる時期に日帰りのバス旅行を春と秋の年に2回開催する事とし、今回から秋に日帰りバス旅行を実施しました。

当日は、早朝7時に食堂に集合、予定時間の7時30分過ぎには出発する事ができました。

行きのバス車内では、最初の目的地である「森と湖の楽園」に向かう途中、富士山が右正面に現れてきて、晴れ渡った青空に美しく雄大なその姿は、とても見事で、「あれは富士山ですか！」と、皆、感動し写真を撮っていました。

「ほうとう手打ち体験・昼食」場所の「森と湖の楽園」は、タレントの清水国明さんが運営するキャンプ場で、宿泊用の様々なトレーラーハウスがあるとても広い敷地内の炊事場を借りての体験、昼食となりました。予定の10時少し前に到着し、バスから降りるとひんやりと寒いくらいでしたが、すぐに集合写真を撮り、体験教室の先生に炊事場へと案内をしてもらいました。体験前に、寒い中、冷たい水で、皆、悲鳴を上げながら手洗いをし、それから、6人ずつの班に分かれ、それぞれのテーブルの上に、材料や道具が並べられ、椅子に座ると、先生の「ほうとう」のお話からスタート。武田信玄が考案した食べ物で、戦場で休憩の時に食べていていたとの説明があり、「ほうとうは漢字でどの様に書きますか？」など、会館生からの質問にも丁寧に答えた

ほうとう作りは、とても大変な作業で、水をあまり使わず、とても固く、なかなかまとまらないうえ、ようやくまるめた後は、自分の体重を麺棒にして薄くのばして行かなければならず、皆、必死で交代しながらの作業になりましたが、寒い事も忘れる事ができ、最後は、麺棒の直径より大きくなばした生地を包丁で切り、お鍋にかぼちゃ、椎茸、しめじ、人参、大根、油揚げなどを出汁入りのスープと一緒に煮て、お味噌を入れて完成。かぼちゃの甘味がでて、とても美味しく体も温まりました。次の目的地である「河口湖オルゴールの森」へは、20分程で到着し、バスから降りて、入口の門から入って行くと、そこはもうヨーロッパのおとぎの国、建物だけでなく、橋や池やお庭や建物内のインテリア、細部に至るまで、感動もので、皆、写真撮影に盛り上がっていました。オルゴールの絵付け体験会場である建物内の部屋に行き、各自、事前に選んだオルゴール曲が入った木箱を受け取り、机上に用意された絵の具、筆を選ぶと、約2時間余り、皆、真剣にイメージを

膨らませて思い思いの絵を丁寧に描いていて、皆、とても上手で、感心しました。

帰路は、マラソンの終着時間、場所と重なったことで、予定のお土産屋さんを変更し、道の駅「富士吉田」になりました。往路の続きのDVD映画上映をし、1作目が終わり、2作目を上映したものの、皆、2つの体験をした為か、バスの乗り心地がいい為か、ほとんどの人が熟睡。帰りの中央道は、事故のため、非常に渋滞していたので、トイレ休憩は、予定の談合坂SAと石川PAの二ヶ所で取りました。お腹もすいてしまったようで、中には食事を摂る人もいて、3連休の最終日の混雑に疲れ見え隠れさせてしまいました。

帰着したのは、予定時間を2時間10分も過ぎた19時40分。参加の会館生達には、長時間のバス移動で疲れさせてしまった事をお詫びいたします。又、今回の旅行が、日本滞在中の楽しい思い出の一つとして、オルゴール曲を聞く度に、皆で作って食べたほうとう、美しい富士山、河口湖、そして力行会館を思い出してくれる事を願うばかりです。

次号で、会館生からの感想文を紹介させて頂きますので、お楽しみにしていて下さい。



# 今、ベネズエラは？

- 現地滞在 38 年の日本人画家、内情報告と共に作品で訴え -

故・チャベス前大統領時代、原油確認埋蔵量世界一を誇るベネズエラは、時のオイルマネーの好況による社会主義政策で一世を風靡し、世界の注目を浴びていましたが、彼の死後を引き継いだマドゥロ大統領就任直後からのオイルマネー下落により、その社会制度が立ちゆかなくなると共に、多くを輸入に支えられていた社会構造が崩壊するばかりではなく、生活必需品の輸入が滞り、医療品を含めた強烈な物不足とハイパーインフレで、その日を暮らすことすら難しくなってベネズエラから、失望のため、多くの国民が隣国へ国外逃亡をしている姿が我が国でも報道されています。

そのような、ベネズエラに結婚と共に 38 年間永住し、往年の輝かしい時代を経験し、日本とベネズエラの交流に努められた日本人画家の小谷孝子氏は、移りゆくこの国の変化、マドゥロ大統領就任直後の 2013 年以降からの治安の悪化と、身近に頻発しつつあった近隣外国人及び住民達を狙った殺人や強盗が頻発、このような状況下から次第に精神を病むこととなり、取るものも取り敢えず、這々の体で 2016 年 3 月に日本へ帰国、以来、夫や子供達のいるベネズエラへの帰国が叶いません。

そのような第 2 の祖国ベネズエラの現状を多くの人々に知ってもらうために創作された絵画作品が、昨年から東京・大阪にて個展を実施・展示され、大変多くの方々より好評を得、今回、この一年間創作活動を行い、新たな作品を加えた「ベネズエラのたより」と題する個展が、2018 年 10 月 1 日より 6 日まで、東京銀座の銀座煉瓦画廊にて開催され、期間中、小谷氏のベネズエラでの体験談を語る会も同時開催されました。

大阪万博にてコンパニオンをされて

いた小谷氏は、その時に多くの国々の存在に感動し、いずれ海外で生活してみたい志からアメリカへ渡米、そこでベネズエラ人のご主人と出会い、結婚と共にベネズエラに移住、当時はアメリカのごとく南米一豊かな国として生活レベルも高く、たまたま子供の関係で保育園に出入りした際に、日本の折り紙を教えに行ったことが大変好評を得るばかりでなく、当時は東洋の文化に興味が出だした頃であったため、当時の大統領のお墨付きで「折り紙協会」が設立され、長年役職を務めるなど、チャベス政権が生まれるまでは何不自由することのない普通の生活をしていました。しかし、1999 年のチャベス政権誕生後からオイルマネー一辺倒に依存された社会主義体制・ばらまき政治が始まってから、この国の歯車がきしみだし、最初の頃は多くの国民が期待するところであったが、彼の死後に引き継いだマドゥロ現大統領就任直後、オイル価格が下落、今まで輸入に頼っていた経済構造が崩壊、品不足からの治安悪化、強いては殺人や強盗、政府の情報統制など、この国で生きていくのが息苦しく、耐えれなくなり、一時日本へ帰国することとなりましたが、今日のように、声を上げていることが再びベネズエラに反社会行動と見なされ、帰国することが現時点ではかなわなくなっている、と報告されました。

「政治の停滞から市民生活にこれほど深刻な影響を及ぼすことは思っても

みなかつたことであるが、現在起きているベネズエラの危機はいずれ日本でも起こりうる可能性が高いと危惧している。ベネズエラから学び、日本人達も決して政治に無関心であってはいけない。」と小谷氏は警笛を発せられました。

かつて「大コロンビア」を形成する 3 カ国のうち唯一栄華を誇ったベネズエラは、その豊かさ故、他国のコロンビアやエクアドルから多くの労働者を受け入れ、首都カラカスでは彼等の居住する貧民窟がどこまでも続いていた風景が有名でしたが、今では形勢が変わり、この 2 カ国が麻薬カルテル撲滅や社会問題を乗り越え、安定した経済成長を遂げ、ベネズエラからの難民を受け入れことになろうとは、数年前まで研究者の間でも予想されなかった結果であり、今後のベネズエラの趨勢を見守りたく思います。（文責・田中）





# おたより コーナー

10月8日にカレンダーが届きました。カルガリー市には10月2日に一晩で30センチ余り雪が降って、除雪の準備が十分でなかったカルガリー市では、近隣の町から助力してもらって切り抜けたといったところです。このところ、毎日、少しづつ雪がパラパラと降っています。日本の梅雨のようです。ロッキー山脈は真っ白で、ふもとではかなりの積雪です。

雪と共に、スポーツでは、国技のアイスホッケーが9月末から、来年の5月始めまで、それぞれホームタウンを持つ北米のチームとカナダの30チームが各地を巡って2回づつ対戦するリーグ戦が繰り広げられます。

私達は、毎週、教会と、家庭集会、それに日系人協会の寿会（老人会）に行っています。

〔力行世界〕も、英語はじめ、色々な外国語が目立ってきましたが、寮生がP.C.とかタブレットなどを使って日本語を学べるチャンスが出来たらと、思っています。

お詫びをかねて、近況をお知らせしました。

10月14日 伊能 弘治

(カナダ会員)

Dear Members of Rikkokai:

I wish to thank you very much for sending me a beautiful calendar for 2019. My very best wishes for a successful year for the activities of Rikkokai for the next year, 2019 will be the important year between Japan and Paraguay, as we celebrate de 100 years of the opening of the relationship for both countries.

Paraguay and Japan initiated in November 17, 1919. The agreement was signed by Minister of the Japanese Legation (at that time there were not Embassies) Mr Shichita Tatsuke who were in Chile representing the Emperor Yoshihito and Dr Eusebio Ayala, Minister for Foreign Affairs representing Dr. Jose P. Montero, the president of Paraguay.

We are preparing the celebration of this special event.

Best regard from Paraguay

Emi Kasamatsu (エミ笠松)

Member of the Paraguayan Academic of History

President of PEN Club of Paraguay

Researcher of Japanese immigration in Paraguay and in the America continent.

(パラグアイ会員)

感謝の気持ち及び我が国と其の人々の発展を願う意志が私達にエネルギーをもたらし、命の種を蒔く事が我々の心を動かし、励まし続けてくれます。

これまでに植えられた種子は肥沃な土地で良い結果をもたらしていると自身を持つ西村財団は2019年に設立40周年を迎えます。

私達の歴史の一部であり、今後とも有望な将来の一歩であり続けられる皆様方に幸せなクリスマスと祝福を祈ります。

メリークリスマス&amp;豊かな2019年を!

(ブラジル・ポンペイア)  
西村財団 西村治郎

学校法人 日本力行会

理事長 村上悦榮 様

謹啓

秋冷の候、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。  
この度は2019年版カレンダーをお送りいただき、誠に有難うございます。

今後のさらなるご躍進をお祈りいたします。

本アルモニア学園は本年5月をもちまして創立25周年を迎えるに至りました。これもひとえに貴会の熱意あるご支援ご指導の賜と、心より感謝申し上げる次第でございます。将来、貴会里っこう幼稚園と本学園幼稚園部との国際交流等させて頂ければ幸甚に存じます。

貴会皆様にとりましても来たる新年いっそうのご発展を祈念いたします。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

謹白

2018年10月03日

(ブラジル) アルモニア教育文化協会  
会長 和田忠義

村上悦榮様

11/1~18

2019年渡航リスティングカレンダー  
カリヨンラジオへおVTC。  
シカゴ事務室開設賀りをうようお祝い  
申上ます。

ハワイへ!

(ハワイ会員)

ボーナ福

Belo Horizonte, 2018年9月14日

村上悦榮 力行会理事長殿

本日2019年度版カレンダーを受け取りました。毎年美しい日本の風景を見られるカレンダーを頂きありがとうございます。月の過ぎた部分は近所のブラジル人の友人に譲って、喜ばれています。彼も日本の美しい風景で屋内を飾っているのでしょうか。

私は1960年、力行会を通し単独移民として来た者で、既に映画界にも出演されたり、美術界でも活躍されている金子謙一氏と殆ど同じ頃に渡り致しました。私の場合は当時力行会の理事としておられた永田泉先生の御紹介で、私が望んでいた農事試験場に一年半の百姓仕事の後入る事が出来まして、その後幾つかの研究機関にてりながら仕事を受け、年金生活に入りました。

年金生活に入ってからも既に14年、その間一切仕事をせずに遊んで暮らしていりますが、この様な人生を送っていても良いのだろうかと、ほんの少し反省もしない事は無いのですが、私も既に81歳、緑内障で脚が弱り足が弱って来ていましたので、お茶を濁すと言うよりも、私達自身がボケない様にしている次第です。

妻が若い頃その兄の経営していた薬局を手伝っていた為か、健康に良く気をつけているので、二人で毎週何日か Pilates に通ったり、テニス教室を受けたり他の合唱団で彼女はソプラノ私はテナーで歌い続けても居ます。

私は1965年頃からずっとブラジル社会で暮らし続け、日系社会から遠ざかっていましたが、二度目に寂寥となった私の母が1995年日本から来て我家に一緒に暮らすようになってから、この町の日系人の創設した、日伯文化協会に加入して最近は妻多くの日系人達との友人関係を深めています。

振り返ってみると私は大学卒業後ブラジルに遊びに来て以来遊び続けて年金で暮らしてきました。しかし其れも日本力行会のお陰であったと、其方に責任を半分ほど負っていた事で、良心の呵責の方だけを其方に背負っていただく事にしています。

鹿児島県の力行会の発展を祈りながら

(ブラジル会員)

# 学校法人 日本力行会の 新たな役員等が決まる

2018年12月4日に第2期の任期が終了することを受けて、新たに第3期の役員等を選任、決定しましたので、お知らせします。任期は、2018年12月5日から2020年12月4日までの2年です。(敬称略)

## ①理事会

理事長	村上 悅榮 (再任)
理事	五十嵐 和代 (再任)
理事	大越 紀史 (再任)
理事	佐藤 璃二 (再任)
理事	説寿 弘 (再任)
理事	山賀 博通 (新任)
理事	井口 弘一 (新任)
理事	伊藤 政寛 (新任)

## ③評議員会

評議員 (議長)	井口 弘一 (再任)
評議員 浅見 均 (再任)	
評議員 角井 美穂里 (再任)	
評議員 小嶋 稲子 (再任)	
評議員 佐藤 佐記子 (再任)	
評議員 高橋 徳行 (再任)	
評議員 橋 正克 (再任)	
評議員 田丸 豊 (再任)	
評議員 土田 秀行 (再任)	
評議員 中野 國雄 (再任)	
評議員 丸山 昌宏 (再任)	
評議員 門間 めぐみ (再任)	
評議員 和田 敦彦 (再任)	
評議員 安藤 瞳美 (新任)	
評議員 大木 啓稔 (新任)	
評議員 内藤 寿代 (新任)	
評議員 中村 佳代 (新任)	

## ②監事

監事 林 文夫 (再任)
監事 矢崎 誠一 (新任)

なお、第2期で退任する役員等は以下のとおりです。(敬称略)

小泉知定 (理事から顧問に就任)、幸脇一英 (理事を退任)、横尾紀彦 (監事を退任)、佐藤治子 (評議員を退任)、中嶋春洋 (評議員を退任)、広津欽三 (評議員を退任)

## 挨拶

このたび、第3期の新たな組織体制が発足しました。日本力行会を取り巻く環境は日々変化しており、就中、わが国では日系4世等の受け入れに取り組むこととしており、日本力行会としても喫緊の課題と受け止め、その対応を図ることにしています。また引き続き、海外からの留学生の受け入れ、女性の社会参加への積極的な支援として幼稚園及び認定こども園の運営や放課後児童の保育の充実を図っていかなければならぬと考えています。

今後も、山積する課題に果敢に取り組み、日本力行会の発展に寄与していきたいと考えていますので、よろしくお願ひいたします。

学校法人 日本力行会  
理事長 村上 悅榮

## 日本力行会機関紙「力行世界」 定期購読会員ご加入のお願い

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より多大なご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

当会はお陰様で創立122年を迎えました。「日本民族の靈肉救済」を旗印に、苦学生及び渡米希望者に支援や便宜を与え、さらに青年の移住斡旋や現地教育にも傾注し、北米、中南米、東南アジア、旧満州へ約3万人の移住者を送り出し今日に至っております。

創立80周年には、記念事業として創立理念をさらに発展させ、“世界と日本の架け橋となる人材育成”“海外同胞との連携強化”などの実現を目標に、留学生宿舎・「国際交流会館」を新設し、各国からの留学生を迎える、日常生活を通して日本文化を習得しながら修学や研究に励めるような環境つくりと支援活動を続けて参りました。

ご賢察の通り、この約40年間に円価格の激変などの日本経済及び世界的位置づけの変容により来日に感謝すべき時代を迎えた今、留学生の来日数や留学目的も変わり、公益の法人といたしまして資力不足ながらも、関係先との諸問題の解決や支援活動の強化や充実にも拘らず、在日留学生の生活環境はまだまだ十分と申し上げる状況ではございません。

つきましては、より積極的な国際交流の継続をご理解頂き、当会活動理解の為、『日本力行会機関紙「力行世界」定期購読会員』のご加入を頂きたくお願い申し上げます。また、ご友人や国際交流にご関心を抱かれている方々への紹介も合わせてお願いいたします。

末筆になりましたが各位の益々のご健勝と弥栄を祈念いたしております。

敬具

平成31年1月15日発行  
年4回発行(1・4・7・10月)  
発行

**(学法)日本力行会**

〒176-0004  
東京都練馬区小竹町2-43-12  
電話 03-3972-1151(代)  
FAX. 03-3972-1264  
E-MAIL: rikko@rikkokai.or.jp  
ホームページ  
<http://www.rikkokai.or.jp>